

## 平成17年度 第4回和歌山市入札監視委員会 議事概要

開催日及び場所	平成18年2月15日(水) 市役所7階 記者会見室		
出席委員氏名	井伊 博行(委員長) 神吉紀世子 廣谷 行敏 南出 和寛 山西 良子 <span style="float: right;">五十音順</span>		
審議対象期間	平成17年10月 1日～平成17年12月31日		
抽出案件(総件数)	建設総務 4件 水道局 1件	議 事 1 入札及び契約手続の実績状況等の報告 2 抽出工事及び業務に係る経緯等の審議 3 平成17年度第3回入札監視委員会において、検討課題となった事項の報告	
一般競争入札 (事前審査型)	建設総務 -件 水道局 -件		
一般競争入札 (事後審査型(郵便入札))	建設総務 -件 水道局 -件		
一般競争入札 (事後審査型(持参方式))	建設総務 1件 水道局 1件		
公募型指名競争入札	建設総務 1件 水道局 -件		
指名競争入札	建設総務 2件 水道局 -件		
随意契約	建設総務 -件 水道局 -件		
委員からの意見・ 質問,それに対する回答	意見・質問		回 答
	別紙のとおり		別紙のとおり
委員会による建議の内容	なし		

**和歌山市入札監視委員会**  
**平成 17 年度 第 4 回会議録**

<p>議事第 1 号 入札及び契約手続の実績状況等の報告</p>	<p>事務局説明</p>
<p>議事第 2 号 抽出工事及び業務に係る経緯等の審議</p>	<p>南出委員より抽出の経緯について報告</p>
<p>(建設総務課分) [事後審査型一般競争入札(持参方式)] ・楠見都市下水路流入渠工事</p>	<p>事務局(建設総務課)抽出事案の概要説明 委員:持参方式による入札の落札率はどのようになっていますか。 事務局:持参方式の案件は 7 件ありました。その中で 5 件が最低制限価格の 75%の落札率になっており、残りの 2 件のうち 1 件が建築工事で 81.82%の落札率。もうひとつがこの楠見都市下水路流入渠工事で 90%の落札率になっています。  委員:沈埋工法が採用されていますが、この工法は難しいものなのですか。 事務局:沈埋工法は非常に特殊な工法で、施工できる業者も限られます。この付近は軟弱な地盤のために特殊な工法であるこの沈埋工法を採用しています。軟弱地盤では通常の矢板を用いる工法に比べると、沈埋工法のほうが設計の段階で安くなっています。 委員:土木工事の他の持参方式の案件は、落札率がすべて最低制限価格の 75%になっていて、この工事のみ 90%の落札率になっていますが、この原因はこの工事が特殊な工法であったためと考えられますか。 事務局:入札参加業者も少なかったこともあり、この工事が特殊な工法であったために、他の土木工事よりも落札率が高くなったと考えられ</p>

<p>[指名競争入札]          ・下水路整備工事 雄湊地区南中間町</p>	<p>ます。</p> <p>委員：この持参方式の入札制度は新しい入札制度になりますが、落札者決定までにかかる日にちは短縮されましたか。</p> <p>事務局：従来の事前審査型の一般競争入札は公告から入札までおよそ34日間必要ですが、この持参方式は、およそ24日間ですので、かなりの短縮になりました。</p> <p>委員：この支線工事の入札の一覧をみると、工事の種別が土木工事と管推進工事がありますが、違いは何ですか。</p> <p>事務局：工法の違いになります。和歌山市では入札参加希望業種を土木工事と管推進工事で区別していますので、参加の業者も違ってきます。工事場所が軟弱な地盤であれば沈埋工法を採用することが多く、民家が隣接していたり、交通量が多く通行止めができない場合は推進工法で施工します。工事場所の環境によって工法が違ってきます。</p> <p>事務局（建設総務課）抽出事案の概要説明</p> <p>委員：この工事は工種が下水道管更正工事ということのでめずらしい工種になっており、また落札率も高くなっています。</p> <p>事務局：落札率は93.9%です。そして、この管更正工事は年に1件あるかないかの程度になっています。</p> <p>事務局：管が老朽化してくると、管の接続部分が破損し水が漏れ、管の上部にある道路が陥没するおそれがあります。管更正工事は老朽した既設管に樹脂のようなものを押し込み、管の内側に貼り付けて、更正を行うものです。通常の土を掘り起こし新管に取り換える場合と比べると工期の短縮、工事費の削減、そして</p>
--	--

<p>[指名競争入札] ・和歌川処理区支線工事その3</p>	<p>通行止めをしなくても良いというメリットがあります。そして、デメリットとしては管の内側に樹脂のようなものを貼り付けるために、管の口径が小さくなるということが挙げられます。</p> <p>委員：耐用年数はある程度ありますか。 事務局：かなり、あります。もちろん、新管に取り替えるほうが耐用年数が長くなりますが、管更正工事のほうが工事費が安いことや、通行止めにする必要がないということで、先進都市では数多くみられます。</p> <p>委員：接続部分も問題なく更正できますか。 事務局：問題なくできます。樹脂を貼り付けた後で、上から穴を開けています。</p> <p>委員：それでは、この工事をするには特殊な機械や技術が必要になってくるのですね。 事務局：はい。管更正工事は樹脂メーカーの系統でわけられるのですが、この工事の入札は同じ樹脂の系統の業者だけでなく、3つの系統の業者を混ぜており、少しでも競争が働くように工夫をしています。</p> <p>事務局（建設総務課）抽出事案の概要説明 委員：落札率が高く、辞退者が多いですね。 事務局：あくまでも推測ですが、工事場所に民家が密集していることもあり、施工しにくい工事であったのかと考えております。</p> <p>委員：地元の業者が落札しているというのに、落札率が少し高いですね。 事務局：支線工事は金額が高いため、一般競争入札が多いのですがこの工事は金額が低いために指名競争入札を行っています。一般競争入札</p>
------------------------------------	---

<p>[公募型指名競争入札] ・紀伊中学校他3校耐震補強設計業務</p>	<p>であったなら、もう少し落札率が低くなっていたかもしれません。</p> <p>事務局（建設総務課）抽出事案の概要説明 委員：今までに行ってきた耐震診断業務は落札率が低かったのですが、今回の耐震補強設計業務は落札率が高くなっていますね。</p> <p>事務局：平成15年から3年で耐震診断業務は77件行っていますが、その平均落札率は79.34%になっています。今回の耐震補強設計業務は、耐震診断業務に比べると落札率が高くなっていますが、落札者はすべて耐震診断業務の落札者と異なっております。診断業務と設計業務の落札業者において、関連性は確認できませんでした。</p>
<p>（水道局分） [事後審査型一般競争入札] ・脱水機設備改良工事（3期）</p>	<p>事務局（水道局）抽出事案の概要説明 委員：開札調書を見ると入札に参加した業者が3社しかありませんが、少ないと思いませんか。</p> <p>事務局：今回は、電気設備工事で特殊な工事であると考えられますが、もう少し多くの業者が参加してくれるであろうと考えてはいたのですが、結果的に3社ということになっています。</p>
<p>議事第3号 平成17年度第3回入札監視委員会において、検討課題となった事項の報告</p> <p>今回の委員会で提案された検討事項について</p> <p>委員の委嘱期間を終えて</p>	<p>事務局（建設総務課）より平成17年度第3回入札監視委員会において、検討課題となった事項の報告。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 予定価格の積算の方法についての説明について</li> <li>・ 随意契約の予定価格の積算の方法について（後日、事務局から資料を送付する予定）</li> </ul> <p>井伊委員長より挨拶 建設部長より挨拶</p>